

Accessシステム 超リフォーム術

ポイントを抑えて楽々リフォーム



第7回

ハイパーリンクによる Webへのアクセス

T'sWare

星野 努 HOSHINO, Tsutomu

<http://homepage1.nifty.com/tsware>

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
Access 2003

Level



Samples

はじめに

ホームページでは、「ハイパーリンク」はもうお馴染みですね。ハイパーリンクとは、リンクの設定されたテキスト(ハイパーリンクテキスト)をクリックするだけで、リンク先のページへとジャンプできる仕組みです。

この機能は、Accessにも装備されています。テーブルのフィールド、フォームのテキストボックスやコマンドボタンなどにハイパーリンクの設定を行なうことにより、自由にWebサイトやファイルを開いたり、さらには他のAccessオブジェクトへとジャンプしたりすることができます。ハイパーリンクを使うことで、スタンドアロンのデータベースシステムからでも、関連する情報をWebから入手(実際にはそのサイトをブラウザで開いて閲覧)することができるのです。

本連載ではこれまで、「Access=データベースソフト」という観点から、Accessのテーブルやクエリなどのオブ

ジェクトをより上位のMSDEに拡張する方法について説明してきました。今回はさらに説明の範囲を拡大し、「ハイパーリンクを使ったAccessからWebへのアクセス」について取り上げてみたいと思います。

なお、Webへのハイパーリンクは、Accessシステムのリフォーム/拡張という点から考えると、スタンドアロンからLANへの拡張の延長線上にある機能です。とはいえ、この機能は、インターネット(またはイントラネット)に接続できる環境であれば、通常のMDBファイルでも利用できるのです。本連載ではAccessプロジェクト(.ADP)ではなく、基本的なMDBファイルに戻って話を進めてゆくことにします。

テーブルにおける ハイパーリンク

Accessでは、テーブルやフォームなどでハイパーリンク機能を使うことができます。まずは「テーブル」を例にして、ハイパーリンクの概要と設定方

図1：データ型の選択

フィールド名	データ型
ID	オートナンバー型
リンク方法	テキスト型
リンク先	テキスト型
	テキスト型
	メモ型
	数値型
	日付/時刻型
	通貨型
	オートナンバー型
	Yes/No型
	OLE オブジェクト型
	ハイパーリンク型
	リンクアップ ウィザード

法について説明してゆきましょう。

🏠 ハイパーリンク型

テーブルをデザインするときは、必ずフィールド名とデータ型を指定します。Accessでは、テーブルに格納する情報の種類に合わせて、さまざまなデータ型を選択することができますが、その中のひとつに「ハイパーリンク型」と呼ばれるデータ型があります。

テーブルに保存されたデータにハイパーリンクを設定するのは極めて簡単です。フィールドのデータ型の一覧から“ハイパーリンク型”を選択するだけです(図1)。これで、データシートを表示してフィールドにリンク先文字列を入力すると、ハイパーリンクテキストとして認識されるようになります。

ハイパーリンクテキストとして扱われる証拠として、フィールドに入力された文字列はホームページのリンクテキストと同様、下線付きの青い文字で表示されます^[注1]。また、マウスを文字列の上に移動すると、ポインタが手の形に変わります(図2)。

注1) 表示色は「オプション」ダイアログの「全般」タブの「Webオプション」で変更することができます。

図2：データシートにおけるハイパーリンクの表示

ID	リンク方法	リンク先
1	URL	http://www.seshop.com/
*	(-)	http://www.seshop.com/

🏠 5つのリンク先

Accessのハイパーリンクは、Web上のホームページを表示するだけではありません。リンク先として、次の5つを指定することができます(図3)。

①URL

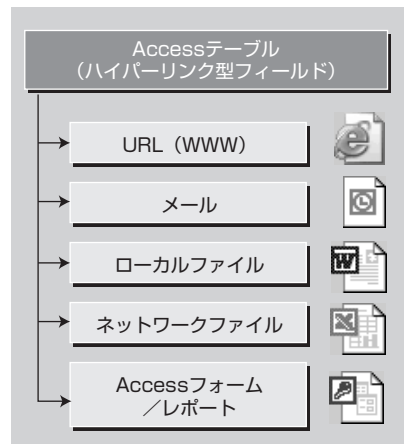
“http://www.seshop.com/”のような形式で表現される、いわゆる“ホームページアドレス”です。世界的なインターネットはもちろんのこと、HTTPプロトコルを使った社内ネットワークであるイントラネットもこれに含まれます。また、ファイルのダウンロードなどを目的としたFTPサイトも扱うことができます。テーブルにURLを保存することによって、リンク集的なデータベースを作ることができます。

②メール

ホームページでも、メールアドレスのテキストをクリックすると送信メールが新規作成されるというリンクがあります。Accessのハイパーリンクも同様に、ハイパーリンク型フィールドに格納されたデータをメールアドレスとして扱うことができます。

たとえば、顧客データが保存されているテーブルにメールアドレスのフィールドを設けておくことによって、ワンクリックでその顧客宛ての新規メールを作成できるといった機能をデータ

図3：Accessで設定できるリンク先



ベースシステムに付加することができます。

③ファイル

主にスタンドアロンとして利用することになりますが、ディスク内のファイルをリンク先に設定することもできます。URLをリンク先に指定した場合には、自動的にデフォルトのWebブラウザが起動して当該アドレスのページが開きます。これと同様、ファイルを指定した場合には、そのファイルに関連付けられたアプリケーションが起動して当該ファイルが開きます。

たとえば、Word文書やExcelブックのファイル名(フルパス)をハイパーリンク型フィールドとしてテーブルに保存しておけば、ディスク上に分散した文書をAccessで管理することができます。また、画像のファイル名を保存しておけば、画像データベースを作ることができます。文書や画像自体をAccess内に格納する必要がないのでデータベースサイズが大きくならずに済むとともに、ファイルの保存先フォルダをAccessデータベースで一元管理で